

## 主の洗礼（1月11日）

### [説教]

今日は、降誕節の最終日です。私たちは、この日、「主の洗礼」の祝日を祝います。神の御子は、人間となって、私たちを救うために、「洗礼」を受けられたということを記念します。主イエスが、私たちのために洗礼を受けられたことに感謝します。

福音記者マタイが伝えているように、神の御子イエスは、洗礼を受けられた時、聖霊が「ご自分の上に降ってくるのを」体験されました。そして、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という御父の言葉を受けられました。主イエスは、私たちと同じ人間です。ですから、主は、洗礼を受けられることで、私たちに人間に、聖霊というのちが与えていること、私たちが皆、神から愛されている者であることを明らかにされました。福音書が記している、「ご覧になった」、「聞こえた」という言葉は、洗礼を受けることで明らかになったということを表しています。洗礼を受けたから、神のいのちが与えられ、神から愛される子とされたということではありません。洗礼によって、こうした恵みが明らかになったということです。

私たちは、人間である限り、洗礼を受けているか否かに關係なく、神のいのちである聖霊を与えられています。すべての人は、神に深く愛されています。洗礼によって、私たちは、神からいただいている恵みに感謝できるようになるのです。神から愛されていることに、神に生かされていることに喜びを感じができるようになるのです。神から大きな恵みをいただいていても、それに気づかなければ、救われているとは言えません。愛されていることを知り、感謝できる時、本当の意味で愛されていると言うことができます。人間とは、神に生かされ、愛されている存在なのです。この真理を信じることが信仰であり、この真理を喜ぶことができる時、本当に救われていることになるのです。主イエスは、ご自分が洗礼を受けられることで、人間であることの真理を明らかにされたのです。

洗礼を受けている私たちは、自分が救われていることに喜んでいれば良いのでしょうか。もし、自分が救われていることだけで満足しているならば、洗礼の恵みを十分に体験していないことになると思います。洗礼の恵みは、私たちに、この恵みをまわりの人と分かち合うように促す、励ます恵みです。神の「心に適う」生き方とは、神からの恵みに感謝し、神の恵みを分かち合いながら生きていくということなのです。

そのために、まず、私たちは、祈りをささげます。すべての人が、自分が愛されていることに気づくように、祈り求めます。長い祈りでなくともかまいません。毎日でなくともかまいません。思うように祈れなくても、祈りたいと思い続けます。こうした思いこそが、最も尊い祈りなのです。

さらに、洗礼を受けている私たちは、日々出会う人に、一人一人が大切な存在であることを伝えるように招かれています。「あなたは神からされている大切な人です」と、直接、言葉で伝えることだけが、神の愛を伝えることではありません。沈黙を保つことが、愛を伝えることになることもあります。自分に語りかけてくる人に、じっと耳を傾けることは、神の愛を伝える行いです。必死になって生きている人を、静かに見守ることは、その人が気づかなくても、愛を伝えています。気づかれない愛こそ、大きな愛なのではないでしょうか。実際、私たちも、神の愛に気づかない時が多いと思います。神や隣人の愛に気づかず、自分の愛を、神は、まわりの人はわかってくれない。そのように思いこんでしまう自分のことを振り返れば、よくわかると思います。

そして、洗礼の恵みは、私たちが、洗礼を受けているか否かに関係なく、いのちのつながりの中で、支え合い、助け合いながら生きていることを、生かされていることを、私たちに思い起こさせます。洗礼を受けることは、共同体の一員になるということなのです。洗礼は、教会という共同体の中で、人類という共同体の中で、地球という共同体の中で、生きていることを思い起こさせます。洗礼の恵みとは、いのちのつながりの中で生きている喜びなのです。今、この世界では、この喜びを奪うような出来事が起こっています。だからこそ、洗礼を受けている私たちは、神の愛、いのちのつながりという愛を伝えていきたいのです。洗礼を受けた者は、自分だけが救われても幸せになられません。皆で救われことにしか、本当の幸いを見い出すことができないのです。

私たちの救い主は、洗礼を受けられることで、いのちのつながりという共同体の一員になられ、今も、今こそ、私たちとともに生きておられます。私たちも、明日から、主イエスとともに、神の愛を宣べ伝えていきたいと思います。洗礼の恵みを喜びを分かち合いながら、ともに歩んでいきたいと思います。